

# 山登りの思い出

東京あやめ会 会長 飯田美穂

汗ぬぐう風もさわやか 木曾駒に  
登りて出合う ななかまど赤き

あこがれし木曾駒うれし ななかまど  
ほのかに見ゆる青き富士山

十年前から登山を始め奥秩父は我が庭  
同然。富士山は五回も登り、特に今年  
馬返しの一合目より頂上迄好天に恵ま  
れ、お鉢廻りも楽しみ乍ら良き想出に。

八月二十五日は木曾駒(二、九五六メ  
ートル) 山頂小屋に一泊。翌早朝に宝剣  
岳をクサリロープ楔等を使い、目の下は  
目もくらむ千仞の谷。息を切らし乍らの  
長い尾根道は一面に匍松に覆われ、磊々  
(らいらい)と言ひむづかしい漢字が似  
合う様な岩の群れが、巨人のおもちや箱  
をひっくり返した様に散乱して、し  
かもそれが皆白い花崗岩なので、匍松の

緑と相映じて美しい景色を作っていた。

息を切らし乍ら宝剣岳の岩又岩を登っ  
て全くの屏風である峰々を踏破して二、  
九三メートルの頂上をきわめた時の壮  
快は又格別のものです。

来年は白馬岳を目指しております。目  
的を持って毎日を過す事はとても張合の  
ある事です。

小生は今、ガードマンを七年、六十九  
才より給料の大半は登山とふるりに。こ  
れが毎日テレビの子守をしていたのでは  
駄目です。

夏の暑い日ビルの谷間は大変、冬の寒  
い日はほかほか懐炉を背中に、自分乍ら  
良くやるよと驚いています。これも小学  
生の頃、毎日学校を休んで牛の鼻取りの  
お陰と今では父に感謝致しております。  
一番残念だったのは五年前に一人で妙高  
山に登りクサリ場を過ぎてから二十分

急に豪雨と雷で引き返した事で、あと  
十五分もすれば頂上だったと後で聞かさ  
れてとても口惜しい想出があります。  
三浦敏三さんは百才迄もエベレストに挑  
戦、それには日々の訓練が何より大切と  
の事、私も少しでも見習って生涯学習の  
気持を大切にしたいと思う今日此の頃で  
あります。



宝剣岳頂上



富士山頂上